

パイプオルガン だより vol.1

日本基督教団 世田谷平安教会
発行 2010年 10月17日



パイプオルガン委員会

委員長	鎌田由喜子
書記	荒井せつ子
会計	徳永雪江
外部交渉	鈴木由子 竹内道子（担当役員）
広報	鎌田有由実

◆教会の楽器として

パイプオルガンは、週の初めに日常を離れ人々が教会に集まり、天に在します御父に、感謝と賛美を捧げる礼拝の中で、人々の声と心をひとつに結び、神の御言葉を深く味わい、心に留めるのを助け導く役割、また、人々に喜びを伝え、人々から歌を引き出す楽器として、長い歴史の中教会で使われてきた楽器です。

また、パイプオルガンは今現在も神様を讃美するために造られている楽器です。

その製作は、受注してから始まり、同じ会堂で同じ響きの鳴ることのない、世田谷平安教会にしかない、パイプオルガンとなるのです。ヨーロッパでは今もなお、600年前に造られたパイプオルガンが礼拝で鳴り響いています。それは、神様の選ばれた楽器として聖書の御言葉と同様、変わらぬ信仰を私達に継承してくれているものではないかと感じます。パイプオルガンの、パイプを通して伝わる風は、神様の息として音となり、私達の心と身体を癒し、力づけてくれるものとなるでしょう。幼い頃から本物の音に触れ、育てられる感性は、なんと恵み深いものかと感謝せずにはいられません。

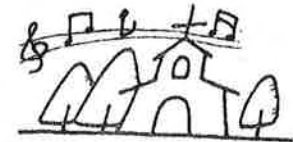
私達の世田谷平安教会に、神様の御心にかなう御名が崇められるためのパイプオルガンが、与えられますように、私達一人一人の想いと祈りとを合わせ、パイプオルガンが設置される日を、共に祈り求めて行きたいと願っています。

(竹内)

◆世田谷平安教会にとって、パイプオルガン設置は長い間の夢でした。

約20年前、旧礼拝堂が増改築された折に、日本のパイプオルガン製作者辻宏氏に見ていただき設置に向けて活動をはじめたこともありましたが、なんとパイプオルガンの重量に耐えられるか心配であり、絨毯敷きの床と吸音板の天井では良い音響が得られないとの評価を受け、設置を諦めた経緯があります。それでもいつか、会堂を改築し、パイプオルガン設置を願い続けて新会堂建築にあたっては、ギャラリー(2階)にオルガン設置のスペースをとっていました。パイプオルガン献金は900万余に達していましたが、一時は建築資金に組み込まれていたものの、建築借入金返済の目途がたった現在、パイプオルガン献金に戻し、さらに特別会計から、金澤七郎・フミ牧師の献金1,000万余を繰り入れて2,000万の予算を組むことが出来ました。パイプオルガン委員会も発足し、精力的に見学、情報収集がなされ、既に2社から見積りを取るまでに至っています。金澤七郎牧師、金澤公子先生と多くの教会員の夢であったパイプオルガン設置に向けて、大きく踏み出した

今、教会員一人一人の祈りをますます熱くして夢の実現に向けて行きたいと願っています。



(荒井)

◆世田谷平安教会のパイプオルガン・・・

まだ金澤公子先生がご存命の頃でした。その頃、夏休みの自由研究にパイプオルガンについて調べたこともあり、公子先生に「息子がオルガンを弾きたがっているのですが、新会堂にはいつ頃オルガンが入る予定ですか」と尋ねたところ、会堂建築の費用がかさんで、オルガンはあきらめようかと悩んでいるところ、との残念なお返事が返ってきました。話しの最後に、隣にいた息子に、「オルガンが入ったらまーくん弾いてくれる？」とお尋ねになり息子は「うん！」との元気な返事。「考えておきますね」とおっしゃって下さったものの、その時は社交辞令と受け止めていました。しかし、次にお会いした時に、公子先生から呼び止められ、「オルガンの件ですが、まーくんが弾いてくれるというので、入れることに決めました。」との第一声には大変驚きましたが、そのあとの、公子先生のお気持ちを聞いて納得するとともに大変感銘を受けました。

パイプオルガンというのは時の流れの中で教会員の顔ぶれは変わっても、教会と共に何十年も存在するものであること。しかし、今までいくつかの教会で、オルガニストがいなくなり、使われなくなったオルガンを見てきたこと。その危惧があるなかで、高額なオルガンを購入する必要があるのか悩んでいる時、「オルガンをいつか弾いてみたい」という子供がいたことで考えが変わったということ。公子先生は幼稚園の副園長先生として、子供たちへの音楽の可能性について語られました。本物のパイプオルガンがあれば、いつか園児達、または教会学校の生徒たちのなかで、自分も弾いてみたいと思う子がいるかもしれない、そしてそれが、将来的に音楽への道や教会生活へと続いていくかもしれない。バッハやベートーベンがそうであったように、子供のときからオルガニストを育てていくという教会の伝統を平安教会も担いたい、すでに今、一人でもオルガンを弾いてみたいという子供がいるなら、幼稚園併設の教会としてパイプオルガンを導入する意義はあるのではないかとということでした。

その後、公子先生は天国へと召され、計らずも先生のお考えを変えるきっかけとなった息子は、今や中学生となり、音楽よりスポーツ優先の毎日を送って

いますが、今は亡き公子先生の思いのこもった素晴らしいオルガンが与えられるよう私も、尽力したいと思っております。

(鈴木)

世田谷平安教会にパイプオルガンを設置しよう・・・

60周年を2年後に控え、金澤公子先生のご遺志でもあるパイプオルガンの設置に向けて、金澤勤牧師をはじめ、教会役員、奏楽者を含めたパイプオルガン委員会を組織致しました。委員会は、東洋英和女学院オルガニストの河野和雄先生をスペシャル・アドバイザーにお迎えし、パイプオルガンの仕組みから、どこの国のパイプオルガンが教会に相応しいかなどの勉強会や、幾つかの教会に設置されたオルガンの見学やその導入過程の勉強などの活動を行っています。これまでに収集した資料や写真は、ファイルに保管してありますので、是非、2階教会ロビーにてご覧になって下さい。

世田谷平安教会に相応しいパイプオルガンとは・・・

私たちパイプオルガン委員会は、教会に集う人々の『心に響き、癒す』パイプオルガンを求めています。そして、パイプオルガンが教会と地域、付属幼稚園との文化活動の原点として、伝道の為に用いられますようにと、考えています。これから先、教会員の方々に愛されるパイプオルガンを目指し、努力してまいりたいと思います。どうぞ皆様からの御意見ご感想をお寄せ下さい。また、パイプオルガン見学会にご興味のある方は、是非パイプオルガン委員までご連絡ください。

(鎌田)

これからの予定・・・

オルガン委員会は、60周年にパイプオルガン設置を目指して、2011年から2012年を目途に、オルガンビルダー（オルガン製作者）を決定する予定です。運命のパイプオルガンに出会うためにはもう少し時間は必要かもしれませんが、この期間を目標に向かって動いていきたいと思っています。より良いビルダーを選ぶために3、4社から見積りをいただこうと思っています。どうか、運命の相手（パイプオルガン）に出会えますように・・・これから『パイプオルガン便り』は、世田谷平安教会パイプオルガン設置へ向けて、皆様と委員会との架け橋になれるよう、心を込めて発行していきたいと思っています。

どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

(鎌田有由実)